

## 目 次

推薦の辞

改訂版の発刊に際して

発刊にあたって

---

## 第 1 章 生命倫理概論 1

---

塚田 敬義

- 1 古代における医師の責任と倫理 ..... 1
  - 1-1 ハンムラビ法典・1
  - 1-2 ヒポクラテスの誓い・2
- 2 ナチス・ドイツ ..... 3
  - 2-1 安楽死・T4 計画・3
  - 2-2 人体実験・4
  - 2-3 ニュルンベルク綱領——ニュルンベルク裁判・6
- 3 大日本帝国 ..... 9
  - 3-1 731 部隊（石井機関）・9
  - 3-2 九大生体解剖事件（横浜 BC 級戦犯裁判）・12
- 4 現代における生命倫理の視点 ..... 13

---

## 第 2 章 生命倫理理論 17

---

冲永 隆子

- 1 本章の目的と概要 ..... 17
- 2 倫理理論 ..... 17
  - 2-1 功利主義と生命倫理・18
  - 2-2 義務論と生命倫理・18
- 3 生命倫理学の成立の契機——人体実験での被験者保護 ..... 21
  - 3-1 米国・21
  - 3-2 米国における人体実験問題—タスキギー事件、ウイロー・ブルック事件、ユ  
ダヤ人慢性疾患病院事件・22
  - 3-3 国家研究法とベルモント・レポート、三原則（ベルモント原則）・25
- 4 「米国型四原則」と「欧州型四原則」 ..... 29
  - 4-1 米国型四原則・30
  - 4-2 欧州型四原則・31
  - 4-3 米国型四原則と欧州型四原則との違い：「他者への配慮」・32
- 5 まとめ ..... 33

---

## 第3章 インフォームド・コンセントの法理

---

37

谷口 泰弘

- 1 はじめに ..... 37
- 2 インフォームド・コンセントの定義 ..... 37
- 3 海外のインフォームド・コンセントの法理の確立までの歴史的背景  
(臨床の場面) ..... 38
  - 3-1 ドイツ骨がん訴訟・38
  - 3-2 シュレンドルフ事件・38
  - 3-3 サルゴ事件・39
  - 3-4 ネイタンソン事件・39
  - 3-5 カンタベリー事件・40
  - 3-6 事件の積み重ねによって・40
- 4 患者の権利の確立 ..... 41
  - 4-1 患者の権利章典・41
  - 4-2 WMA リスボン宣言・43
- 5 日本における裁判例と法的な視点 ..... 43
- 6 インフォームド・コンセントを上手く使いこなすために ..... 47
- 7 本章のまとめ ..... 48

---

## 第4章 生殖技術

---

51

加藤 太喜子

- 1 はじめに ..... 51
- 2 人工授精 ..... 51
  - 2-1 人工授精とは・51
  - 2-2 子の出自・53
- 3 体外受精 ..... 54
  - 3-1 体外受精とは・54
  - 3-2 体外受精に伴う問題・54
  - 3-3 体外受精・胚移植の今後・56
  - 3-4 第三者配偶子を用いる生殖技術・57
- 4 代理懐胎 ..... 58
  - 4-1 代理懐胎とは・58
  - 4-2 子どもを持つ権利・60
- 5 出生前診断・着床前診断 ..... 62
  - 5-1 出生前診断・62
  - 5-2 着床前診断・62

6	ロングフルバース訴訟・ロングフルライフ訴訟	64
6-1	わが国におけるロングフルバース訴訟	64
7	人工妊娠中絶	68
7-1	人工妊娠中絶規制の歴史	68
7-2	日本の法規制のあり方	69

## 第5章 ヒトゲノム解析と医療への応用をめぐる倫理的課題 73

武藤 香織

1	はじめに	73
2	優生学の歴史から	74
2-1	優生学とは何か	74
2-2	優生政策の広がりとは終焉	74
3	ヒトのゲノム解読と倫理的法的社会的課題 (ELSI)	75
3-1	米国での ELSI プログラム	75
3-2	ゲノムデータ公開の原則と企業の利益確保	76
4	ELSI プログラムが与えた影響	76
4-1	個人遺伝情報の取り扱いをめぐる論点	76
4-2	個人遺伝情報に基づく差別の禁止	77
4-3	遺伝子の独占的利用の否定	78
5	個人情報保護法	78
5-1	個人識別符号	78
5-2	要配慮個人情報	79
5-3	具体的な解釈について	79
6	ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針 (ゲノム指針)	80
6-1	ゲノム指針とは何か	80
6-2	研究のインフォームド・コンセント	80
6-3	遺伝情報の開示に関する原則	81
6-4	残される課題	82
7	遺伝学的検査に関するガイドライン	83
7-1	さまざまな遺伝学的検査とガイドライン	83
7-2	知る権利・知らないでいる権利、遺伝カウンセリング	83
8	簡便化する出生前遺伝学的検査とどう向き合うか?	84
8-1	非侵襲的出生前遺伝学的検査の登場	84

---

## 第6章 脳死・臓器移植の問題

---

89

前田 和彦、塚田 敬義

- 1 心臓移植と脳死…………… 89
  - 1-1 はじめに・89
  - 1-2 心臓移植手術の波紋・89
- 2 脳死とは何か…………… 91
  - 2-1 脳死説と三徴候説・91
  - 2-2 わが国の脳死説による死の概念・92
- 3 脳死の判定基準…………… 93
  - 〈資料〉法的脳死判定の手順・94
- 4 改正臓器移植法〔平成21年7月17日法律第83号〕…………… 96
  - 4-1 改正への経緯・96
  - 4-2 改正法の内容と検討・97
- 5 臓器摘出の流れ…………… 99
  - 〈資料〉法的脳死判定の実際・103

---

## 第7章 終末期をめぐる問題

---

119

谷口 泰弘

- 1 はじめに…………… 119
- 2 安楽死・尊厳死の分類…………… 120
- 3 海外の尊厳死をめぐる議論から…………… 121
  - 3-1 カレン・クインラン事件・121
  - 3-2 ナンシー・クルーザン事件・122
  - 3-3 患者の事前の意思表示・122
- 4 海外の安楽死合法化の取り組みから…………… 123
  - 4-1 アメリカ・オレゴン州の取り組み・123
  - 4-2 オーストラリア北部準州での取り組み・124
  - 4-3 オランダでの取り組み・124
- 5 日本における安楽死・尊厳死をめぐる事件等…………… 125
  - 5-1 山内事件（名古屋高裁判決）・125
  - 5-2 東海大学附属病院事件（横浜地裁判決）・125
  - 5-3 川崎協同病院事件（最高裁判決）・127
- 6 国内での前向きな取り組み…………… 128
- 7 本章のまとめ—安楽死・尊厳死と緩和医療にみる看取りの医療との  
関係性—…………… 132

---

**第8章 ケアする者の倫理——看護倫理**


---

135

桂川 純子

- 1 はじめに ..... 135
- 2 看護師の職能的確立と看護倫理の広がり ..... 135
- 3 倫理的な看護実践を確立するための方略 ..... 137
  - 3-1 国際看護師協会（International Council of Nurses / ICN）」の倫理綱領・137
  - 3-2 「看護者の倫理綱領」日本看護協会・139
  - 3-3 専門看護師・141
- 4 看護倫理の基盤となる重要概念 ..... 142
  - 4-1 アドボカシー・142
  - 4-2 責務と責任・142
  - 4-3 協力・143
  - 4-4 ケアリング・143
- 5 看護倫理を実践するために ..... 144

---

**第9章 胎児・小児をめぐる諸問題**


---

147

掛江 直子

- 1 はじめに ..... 147
- 2 子どもの権利とは ..... 147
- 3 社会的弱者の保護 ..... 149
- 4 子どもの自律性と意思決定 ..... 151
  - 4-1 子どもの自律性の尊重・151
  - 4-2 医療における子どもの意思決定・153
- 5 代行判断（代諾） ..... 155
  - 5-1 代諾の判断基準・155
  - 5-2 最善の利益・156
  - 5-3 代諾者の適格性・156
- 6 医療ネグレクト ..... 157
- 7 胎児の社会的地位と医療技術の進歩 ..... 160
  - 7-1 出生前診断と人工妊娠中絶・161
  - 7-2 出生前診断と胎児治療・161
- 8 今後の課題 ..... 162

---

## 第10章 広義の生命倫理

---

165

谷口 泰弘、塚田 敬義

- 1 生命倫理学の関心領域の広がり ..... 165
- 2 環境の倫理 ..... 166
  - 2-1 自然に存在するものの権利の問題・166
  - 2-2 地球資源の有限性・168
  - 2-3 世代間の倫理・169
- 3 動物の倫理 ..... 170
  - 3-1 動物の権利・170
  - 3-2 動物実験の適正な在り方・170
  - 3-3 動物実験計画の立案に検討を要する事項・171
- 4 研究の倫理 ..... 173
  - 4-1 研究の倫理の必要性・173
  - 4-2 研究に通底する価値観と研究生活上の基本ルール・173
  - 4-3 ミスコンダクト（研究不正）について・174
  - 4-4 共同研究について・177
  - 4-5 医学研究等の倫理審査を受けるに当たって・177

---

## 第11章 特別な配慮を要する医療

---

183

黒澤 英明、前田 和彦

- 1 「特別な配慮を要する医療」とは ..... 183
- 2 受診 ..... 184
  - 2-1 「受診」の段階の問題点・184
  - 2-2 権利能力・184
  - 2-3 意思能力・185
  - 2-4 行為能力・186
- 3 治療 ..... 189
  - 3-1 「治療」の段階の問題点・189
  - 3-2 高齢者医療と他者による治療の強制・189
  - 3-3 精神医療と他者による治療の強制・193
- 4 医療費 ..... 194
  - 4-1 「医療費」支払いの段階の問題点・194
  - 4-2 高齢者の医療費・195
  - 4-3 精神障害者の医療費・196

---

## 第12章 医療制度

---

199

内藤 智雄

- 1 医療制度の構成要素…………… 199
- 2 わが国の医療制度の特徴…………… 200
  - 2-1 国民皆保険制度・200
  - 2-2 フリーアクセス・202
  - 2-3 自由開業医制度・203
  - 2-4 現物給付・203
- 3 医療制度の国際比較…………… 203
  - 3-1 先進各国の医療制度の類型・203
  - 3-2 医療制度における目標と評価基準・204
  - 3-3 日本の医療制度の国際的評価・204
- 4 医療制度の改革…………… 206

---

## 第13章 医療経済

---

211

谷口 泰弘

- 1 はじめに…………… 211
- 2 医療経済と生命倫理（医療資源の配分論）…………… 211
- 3 医療に必要な財源の確保と配分の問題…………… 212
  - 3-1 国民経済全体から・212
  - 3-2 保健医療政策上の配分問題・214
- 4 医療への接近性（アクセス）の問題…………… 216
- 5 医療の供給の問題（量的側面）…………… 218
  - 5-1 医師不足による影響・218
  - 5-2 医師等の地域偏在等に関する問題・219
  - 5-3 病床数等のミスマッチ・222
- 6 医療の質に関する問題…………… 224
- 7 まとめとして—医療資源の配分に係る倫理的問題…………… 225

---

## 第14章 医事法序論

---

227

前田 和彦

- 1 医事法序論—衛生法規から生命倫理まで—…………… 227
- 2 医療契約…………… 228
  - 2-1 診療における契約とは・228
  - 2-2 保険医療・230

2-3	医療契約における注意義務	230
2-4	医療水準	231
3	医療過誤	234
3-1	はじめに	234
3-2	民事責任	234
3-3	刑事責任	238
4	医療のリスクマネジメント	240
4-1	リスクマネジメントとは	240
4-2	リスクマネジメントマニュアル作成指針	241
4-3	リスクマネジメントの医事法学的理解	242

---

## 第 15 章 医師の権限と保険診療

---

245

内藤 智雄

1	医師の権限	245
1-1	医師の権限とその範囲	245
1-2	医療の担い手の責務と職業倫理に反する行為	245
1-3	医師の裁量とその要件	246
1-4	新しい医療技術の提供と医師の権限	247
2	保険診療	248
2-1	保険診療とは	248
2-2	保険医療機関と保険医	248
2-3	療養の給付	249
2-4	療養担当規則	250
2-5	診療報酬点数表	251
2-6	保険診療における責務	251
2-7	保険診療の観点から問題となる行為	252
2-8	保険外併用療養費制度	254
2-9	保険診療における医師の権限の考え方	255

---

## 第 16 章 薬事制度と薬害

---

257

水野 大、前田 和彦

1	薬害から見た医薬品等の恩恵と被害	257
1-1	ペニシリンショック事件	257
1-2	サリドマイド事件	258
1-3	アンプル入り風邪薬事件	259
1-4	薬害スモン (SMON)	260



- 1-5 クロロキン中毒・261
- 1-6 薬害エイズ・263
- 1-7 薬害肝炎・264
- 1-8 ソリブジン事件・265
- 1-9 薬害C-JD・266
- 1-10 イレッサ事件・268
- 2 おわりに……………269
  - 2-1 医薬品・医療機器とそれを取り巻く現状と、安全な使用のための薬事制度の改正・269
  - 2-2 新しい医薬品・医療機器を安全に用いるために・269

---

## 第17章 コミュニケーション論

---

273

藤崎 和彦

- 1 なぜ、臨床倫理の場でコミュニケーションか……………273
  - 1-1 患者を思いやる気持ちが必要十分条件か・273
  - 1-2 臨床倫理におけるコミュニケーションの難しさ・274
- 2 コミュニケーション技能を OSCE で評価する……………275
  - 2-1 「身体化された技能」としてのコミュニケーション・275
  - 2-2 コミュニケーション技能を OSCE で評価する・275
  - 2-3 教育パートナーとしての模擬患者の存在・276
  - 2-4 OSCE をめぐる世界的動向と倫理 OSCE・277
- 3 医療現場で求められるコミュニケーション技能……………278
  - 3-1 基本的コミュニケーション技能・278
  - 3-2 行動変容の援助に関わるコミュニケーション・279
  - 3-3 悪い情報をめぐるコミュニケーション・280
  - 3-4 不確実性を共有しながらのパートナーシップ・281

---

## 第18章 医療情報の取り扱いと個人情報の保護

---

283

紀ノ定保臣

- 1 個人情報保護に関する社会の変化について……………283
- 2 スチューデントドクターが医行為をする場面を念頭に、医療情報の取り扱いと個人情報の保護について……………285
  - 2-1 電子カルテシステムを正しく運用するために・285
  - 2-2 電子カルテシステムの実運用について・289
  - 2-3 電子カルテシステムの特徴と効果的な活用方法について・289

3	コンピュータ・ウイルスとその脅威について	293
4	電子カルテシステムの安全な利用方法と診療情報等の取得・利用・提供等の手続きについて	294
4-1	ホームページ（HP）による病院紹介と患者の権利宣言	294
4-2	個人情報の取得・利用・提供等について	295
5	おわりに	296

索引・297

執筆者一覧（扉裏）